

竹森俊平著「ギリシャ危機 - ユーロの弱点露呈 - 」地球を読む、

読売新聞 2010年5月17日朝刊を読む

地球を読む

1. (1)人口 1 千万、国内総生産(GDP)30 兆円の小国、ギリシャで起こった財政危機で世界が揺れている。
 - (2)わずかな亀裂から大伽藍^{がらん}が倒壊するように、国際金融という複雑な建造物も傷に脆^{もろ}い。
 - (3)5月初めのユーロ圏 15 か国、国際通貨基金(IMF)との合意で、ギリシャ政府は GDP の約半分の 13 兆円の公的融資を受ける計画がまとまった。
 - (4)これで 2011 年末までギリシャは市場で国債を借り換える必要がない。
2. (1)融資には、2009 年で約 13 %にのぼる財政赤字の対 GDP 比を 4 年間で 10 ポイント削減する条件がつけられた。
 - (2)現在市場はギリシャ国債を受けつけず、政府がこの条件を拒否すれば債務不履行しか道がない。
 - (3)そうなると、利払いを除いて GDP 比で 10 %の財政赤字を新発国債で埋めるのが不可能になり、一気に削減を迫られる。
 - (4)それなら 1 年間で削減の方がましで、ギリシャ政府に選択の余地はない。
3. (1)理屈はそうでも、公務員給与と年金の減額、消費税引き上げによる生活激変は国民にとって受け入れ難いから、アテネで暴動が起きている。
 - (2)もし公的融資撤回となればギリシャは混沌^{こんとん}に突入する。
 - (3)だが公的融資が実現しても時間稼ぎにしかならず、結局ギリシャは債務不履行に踏み切り、債務減免を要求すると市場は観測している。
 - (4)これが根本問題だ。ギリシャの公債残高は今後 GDP 比で 150 %まで上昇が見込まれる。

(5) 5%の金利で計算しても GDP の 7.5%が利払いに必要となる。これは不履行の水域だ。

(6) しかもギリシャには 19 世紀の独立以来、半分の時期財政破綻^{はたん}していた不名誉な実績がある。

4. (1) この根本問題がギリシャ(G)と同様に財政が悪いポルトガル(P)、スペイン(S)への危機の波及と、欧州の銀行への打撃を同時にもたらしている。

(2) 甲銀行は G に投資しているから危ないといわれ、甲は G の国債を投げ売りする。

(3) 次は P も、S も危ないといわれ、それらの国債も投げ売りする。

(4) P も S も国債が消化できず財政が逼迫^{ひつぱく}する。危険と見なされた銀行は資金調達が困難になり、資金繰りに詰まって破綻しかねないので、早めに危険資産を売り現金を抱え込む。

(5) このため証券投資は途絶え、世界的な株安を招く。

(6) 2008 年の証券会社リーマン・ブラザーズ破綻後の状況に似た「疑心暗鬼」の危機だ。

5. (1) ギリシャ問題がここまで悪化した一因はユーロ圏の政府の対応の遅れにある。

(2) ギリシャ国債とドイツ国債の金利差は今年 1 月から 5 月の間に 6%も拡大した。

(3) 遅い対応を嫌い投資家が逃げたのだ。

(4) 対応の遅さの原因を探るとユーロそのものの問題が浮上する。

[コメント]

GDP の 2 倍近くの国や地方の債務をかかえている日本で、国債や地方債を国内で抱え切れなくなったらどうなるか。ギリシャやポルトガル、スペインどころではない影響を個人や地域、日本だけでなく世界に及ぼす。ではどうしたらよいか。本音の議論を自分のこととしてスタートすべきだ。

- 2010 年 5 月 17 日 林明夫記 -